

土佐市特別養護老人ホーム「とさの里」

○従来型で3フロアに分かれ

一般棟が2フロア、認知症専門棟が1フロア
定員 124名 介護職員 54名の施設です。

○利用者様の内訳は

平均年齢 88.4才、男女比 1:5、平均介護度 3.95です。



社会福祉法人
土佐市社会福祉事業団

土佐市役所前バス停下車、南へ 徒歩 5 分

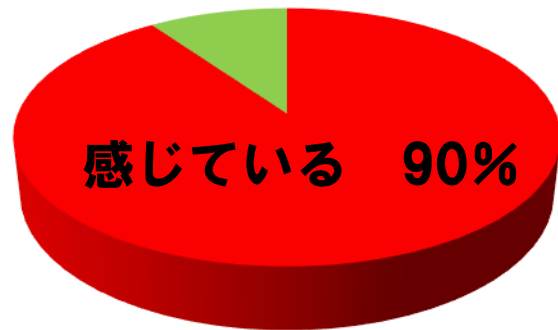


平成29年度腰痛の現状

介護職員の職業病の6割が腰痛といわれている状況下
平成29年当施設(とさの里)のアンケート調査で
業務負担を訴える者が 90%
腰痛がある、時々あると回答した者が 76%
早急な業務改善の取り組みを迫られました。

業務負担を訴える者

特に感じていない 10% (5人)

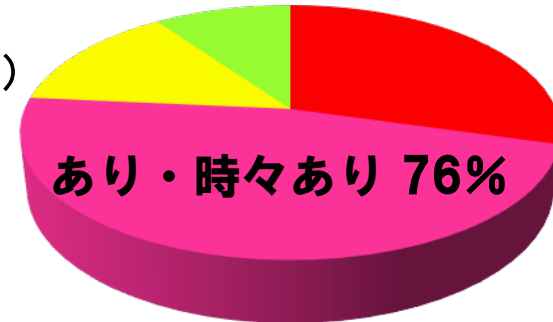


感じている 90% (46人)

腰痛の訴えがあるもの

全くない 10% (5人)

今はない 14% (7人)



あり 29% (15人)

時々あり 47% (24人)

業務改善に向けた取り組み

業務改善に向けた勉強会を開催し、ノーリフティングケアが介護職員の業務負担軽減だけでなく、利用者様にとっても緊張を抑え、安心、安楽な生活につながることを学びました。



複数のリフト等福祉機器購入

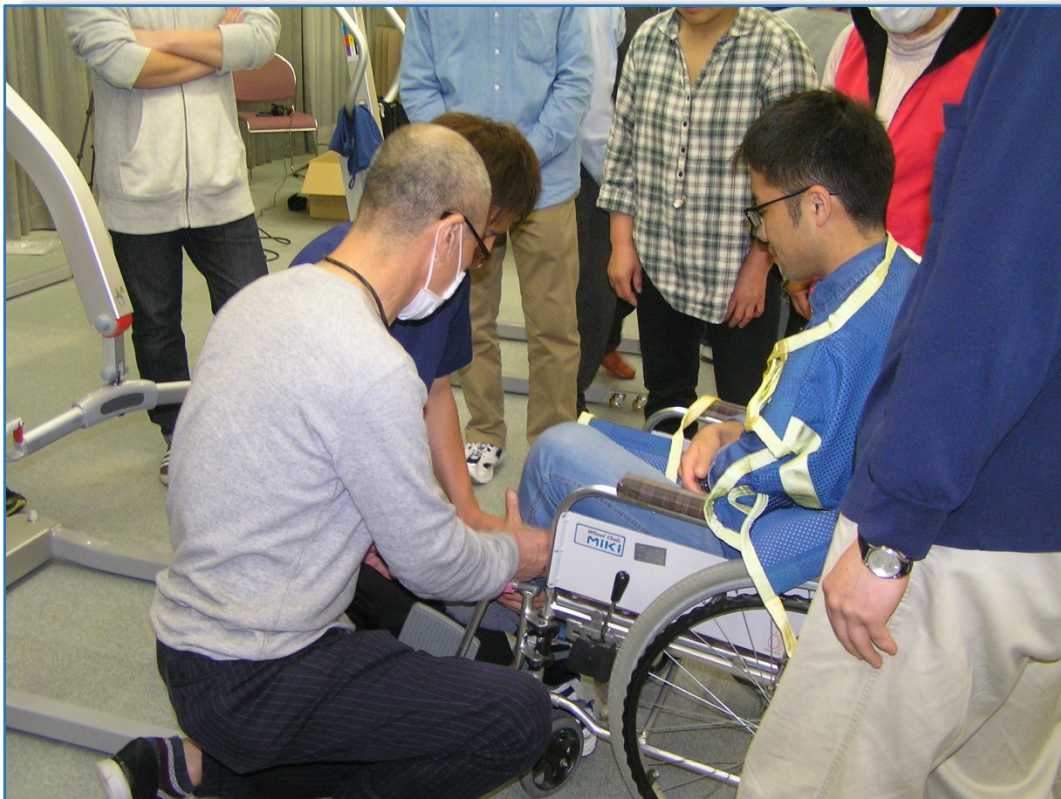
リフト等使用する時間帯は短時間に集中するため、複数のリフト等が必要になります。
リフトが複数あるとリフトを必要とする各居室の近くに置くことが可能になります。



- ◆ 移動式リフト 8台、
- ◆ スタンディングリフト 6台
(ミニリフト3台 スマイル 3台)
- ◆ 他 ロールボード、スライングボード、
スライディングシート、グローブ等 購入

リフト等福祉機器の操作実習

操作の実習は元より、リフト体験することで
利用者様にとっても有効であることを実感しました。



福祉機器使用に対してのテスト実施

テスト実施する目的

- ①使用時の事故予防
 - ②腰痛予防(中腰姿勢等不自然な姿勢のチェック)
 - ③福祉機器使用に対する自信を付ける
- 合格者も間隔を置きフォローアップを行っています。



入浴場面でのノーリフティングケア達成

中腰姿勢の介助が多く、持ち上げ、抱え上げ中心の入浴場面から
リフト、ボード等福祉機器を活用した 利用者様を緊張させない安全な移乗と
介護職員の腰痛予防目的に ノーリフティングケアの取り組みを始めました。

- ①運動機能別 福祉機器の選択
- ②分かりやすいよう図で示した 福祉機器選択シートの作成
- ③浴室レイアウト、動線の変更

統括責任者・PT・機能訓練指導員が 3か月間指導に入りました。



年間事故件数の減少

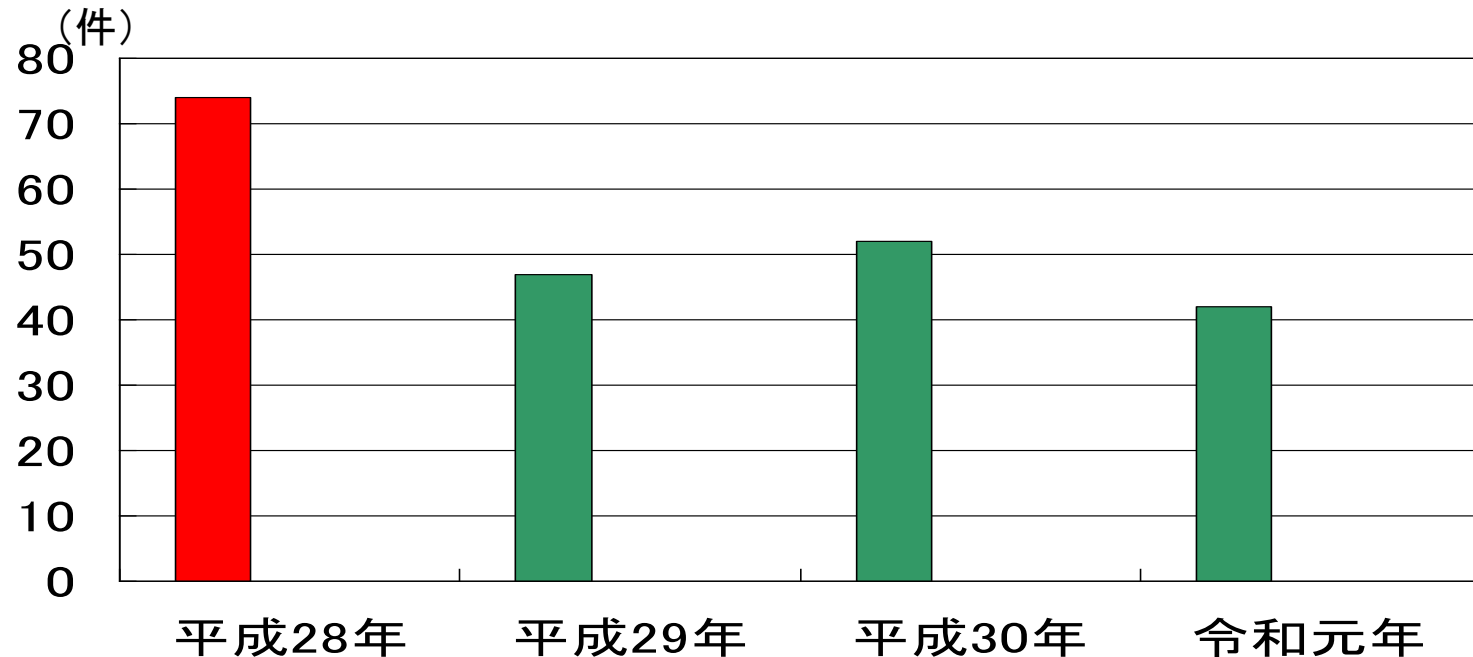
○ノーリフティングケア導入前

平成28年の事故件数 74件でしたが

○ノーリフティングケア導入後

令和元年には(定数 100床から 124床増床)

事故件数は 42件と導入前に比べ 44%減っています。



各フロアで ノーリフティングケア達成

入浴場面でのノーリフティングケア達成経験を、各フロアでのノーリフティングケア達成に生かし取り組みました。

手間がかかる等でリフト導入は思うようには進まず、増して介護職員の少ない朝は困難が多く早朝含めたフロアの指導に2か月間入りました。

- ① 福祉機器が使いやすいよう室内レイアウトの変更
- ② 利用者様の運動機能別居室の変更
- ③ 介護職員動線の変更
- ④ 移動式リフト、ボード等使用しやすいよう設置場所の検討



毎月ノーリフティングケア委員会を開催し 情報交換、意見交換を行っています

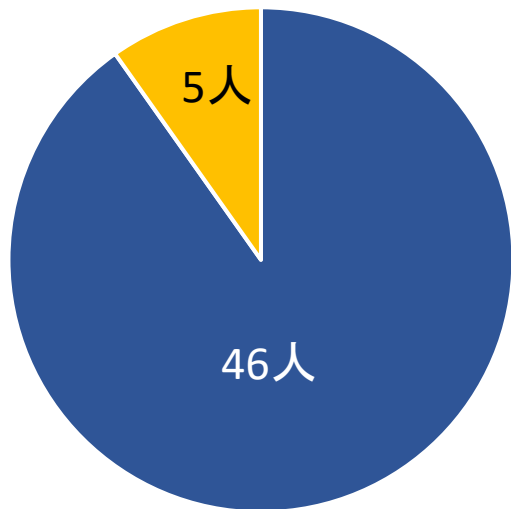
現場委員の意見、問題点を吸い上げ
委員会からは提案等 迅速に行うことが出来るようになりました。



ノーリフティングケア導入前と導入後のアンケート結果と分析

● 現在、従事している介護業務を行う上で 身体的負担は大きいと感じていますか

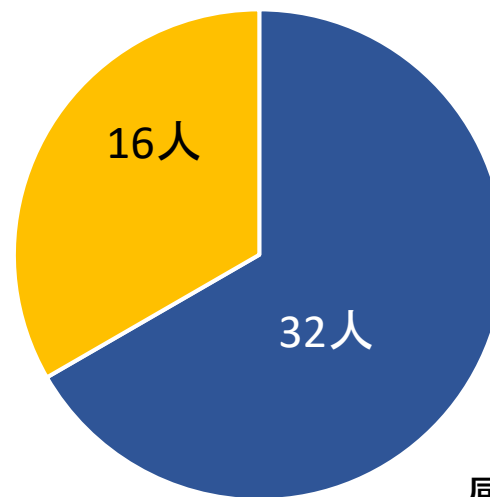
特に感じてない 10%



感じている 90%

導入前 平成 29年

特に感じてない 33%

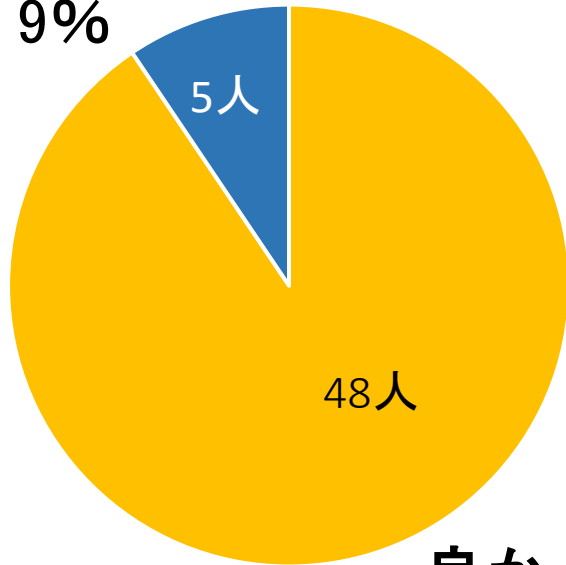


感じている 67%

導入後 令和 2年

ノーリフティングケアの取り組みは 良かったか、悪かったか(令和2年6月時点)

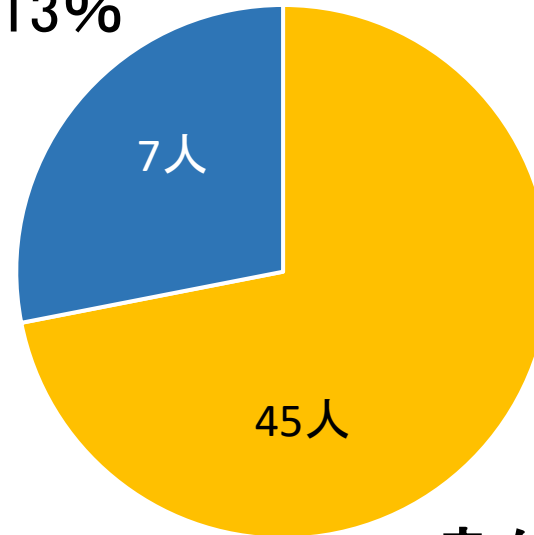
変わらない 9%



良かった 91%

介護職員側から見て

変わらない 13%



良かった 87%

利用者様から見て

介護職員の元気、笑顔があつてこそ 利用者様の笑顔があります

これからも腰痛ゼロ、働きやすい 生きがいを持てる
職場作りへ 今後も努力して行きます。

